

2018年度特定研究奨励金 報告書

報告者所属・氏名

所属	人間社会学部・現代社会学科	氏名	高木 裕子
----	---------------	----	-------

奨励金による研究活動・実績（具体的に記載）

『2018年度 特定研究奨励金申請書』の4.「次年度申請予定の科研費課題との関連」での記載事項2点に加え、以下の4つを行った。

- (1) 平成30年度（2018年度）基盤研究（B）における「研究計画」での「第一段階の調査」を実施した。ここでの結果と先行調査での結果を統合、再分析を行った結果を含め、
- (2) 2018年度海外での国際研究大会で2回（イタリア・シンガポール）、複数本（後掲①では、口頭発表2本とポスター発表1本の計3本。②では、口頭発表1本）の発表を行うと共に、この5月に、本研究関連の投稿論文1本が国際ジャーナルに採択された（修正中）。
- (3) 本研究に関わる国内外（日本・オーストリア・シンガポール）での新規調査を行った。ここでの研究結果や先の国際研究大会での成果等を踏まえ、
- (4) 平成31年度（2019年度）基盤研究（B）一般へ申請した。

尚、上記(2)の発表先は、次の通りである。① 2018年8月2~5日 イタリア・ヴェネチア『2018年日本語教育国際大会（2018 ICJLE）』での口頭発表2本とポスター発表1本。② 2018年12月6~9日 シンガポール・シンガポール国立大学『CLaSIC 2018 - The Eighth CLS International Conference』での口頭発表1本。また、投稿論文採択先は“FLT Journal”で、表題は“Business Japanese language education in Singapore: Impact of bilateral collaborative learning on learning motives”である。(3)では、日本をはじめ、オーストリアではウィーン大学、シンガポールではシンガポール国立大学で、日本語教師等にインタビュー調査を行い、併せて、ここでの研究成果を応用した実践とデザイン研究を行った。ここでの結果は投稿論文にも反映されている。